JFA Elite Programme

JFA Academy KUMAMOTO UKI

JFAアカデミー熊本宇城

2014

公益財団法人日本サッカー協会
JFAエリートプログラム

adidas

世界トップ10を目指して！
ロジングによる教育を開始。

はじめに

私たちは、現代の日本であまり使用されることのない「エリート」という言葉を使っています。

私たちは、この言葉に対し、日本では強い抵抗感があると感じています。しかし、そこを敢えて使っているのです。

現在の抵抗感は、本来のこの言葉の持つ意味を離れたところで生じていると感じています。本来のエリートとは、決して特権階級を指すのではなく、先頭に立って社会に貢献する義務を負うリーダーを指しているのです。

また、日本の教育は戦後、大衆化、平等化の方向をとりました。これはある時期必要なことであったと思いますが、現在、社会的なリーダーの不在およびその育成の必要性がうたわれ始めており、国を挙げてエリート教育に取り組む国も出てきています。

ボトムアップとプルアップという言葉があります。ボトムアップとは、文字通り底上げです。プルアップとは、エリート教育の成果を還元し、社会全体を引き上げていくという考え方です。

私たち日本サッカー協会では、2005年1月1日に、『JFA2005年宣言』をし、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念を実現するために、2015年には、登録数500万人、世界でトップ10のチームになる、そして2050年までには日本でのワールドカップの開催と優勝、という明確な目標を設定しました。そしてそれは、単なる日本サッカー協会の目標としてではなく、日本全国の皆さんと双方向で交わされた約束という形で宣言されました。

そのために私たちは、ベースの水準の向上を重要視し、その方向に大いに取り組んできました。その成果はある程度あがってきたと考えています。そして今、新たに掲げた目標に向けて、さらに一歩前に進むために、ベースの向上とエリート教育の両者を共存させていく必要性を痛感しています。

最近は、スポーツやその他の分野で、早期からプロ顔負けの厳しい取り組みをしている例を見ることがあります。

その活動の種類によってはそれが適切と認識されている場合もあるかもしれませんが、それに対して眉をひそめる方もいらっしゃるかと思います。その抵抗感を分析する必要があります。

私たちは、サッカーという競技の特徴を把握した上で、子どもの発育発達の特徴を研究し、「長期的視野に立った育成」という観点から、それぞれの年代ごとに重点的に取り組むべきこと、適した方法等について、検討を重ねてきました。サッカーについて、そしてサッカー以外の部分について、子どもの頃にこそ取り組ませたい大切なことがたくさんあるという認識に至りました。子どもは小さな大人ではありません。子どもにはそれぞれの年代で子どもに合った取り組みがあります。それを踏まえ、それぞれの年代で最適な環境・指導を与えることが重要です。

また、いわゆる「ぶつ切りの強化」、小学校、中学校、高校でそれぞれがばらばらにそれぞれの時点で完成されたチームをつくって勝とうとすることは、ともすれば、選手の長期的な育成の観点からは、弊害になる場合があります。せっかくのポテンシャルを生かしきれずに終わってしまう選手が実にたくさんいます。本来であれば皆が同じビジョン、コンセプトのもとで子どもがチームを移ろうとも長期的視野に立った育成がなされていけばいいはずですし、私たちは常にそれを目指していますが、それはなかなか簡単なことではありません。そこに一貫指導の意義があります。

私たちは、若年層の育成に長年にわたり積極的に取り組んできて、若年層であればあるほど、可能性を持ったタレントが実にたくさんいることに気づきました。その子どもたちに、是非とも良い環境と機会を与え、持ち合わせた可能性を開花させることができるようにすることが重要であると感じています。

エリートに対する抵抗感のもうひとつには、選ばれなかった者の抱く差別感があると思います。

子どもは時間をかけて、さまざまな刺激を受けて、個人によりさまざまなスピードで成長していきます。若年層でたとえ選ばれなかった子どもがいても、もちろんそれで終わりではありません。それがその子が将来大成しないという判定を下すことでは決してありません。その中からも将来の日本を担う人材が育つと考えています。また、若年層で選ばれた子どもが、将来を保証されたわけでもありません。このプログラムに選ばれたからといって、全員がプロになれるわけではありません。このことは、本人も周囲の大人も、必ず理解しておいていただきたいことです。だからこそ私たちは、サッカー以外の面でも世界に通用する人材となるようなプログラムを組み込んでいこうと考えています。

また、プルアップの考え方で、一部のレベルを上げることによって、周囲のレベル、全体のレベルを引き上げることが可能であると考えています。それによって、ベースを含めたサッカー界全体の幅と厚みが広がり、それが単に直接的な意味だけではなく、世界トップ10を目指す日本代表の活躍につながる大きな力となることを、大いに期待しています。

子どもが育っていく上で、それぞれ重要な若年層のある一時期において、良い環境と良い指導を与える機会をつくりたいと考えています。そのことを是非ともご理解いただきたいと、強く願っています。

JFAアカデミーとは

目　的

「世界トップ10を目指した個の育成」

「世界基準」をキーワードとし、あくまでも個の育成を目的とします。

ロジング形式による教育により、能力の高い者に良い指導、良い環境を与え、長期的視野に立ち、集中的に育成します。

また、サッカーはもちろん、人間的な面の教育も重視し、社会をリードしていける真の世界基準の人材、**常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間の育成**を目的とします。

才能を持つだけでは、必ずしも開花するとは限りません。才能を持つ者に良い環境を与え、本人の努力を伴わせることにより、世界に通用する選手を育成します。

「エリート」という名称に関して

日本の中では抵抗感が強く、根付いて来なかった概念であり、誤解を招きやすい面がありますが、本来の意味を重視し、敢えて使用しています。

本来、特権階級を指すものではなく、社会の各分野でのリーダーであり、むしろ先頭に立って闘いに行く存在、社会に対する責任を果たす存在を指すものです。

私たちは、真の意味でのエリートとなる人材、サッカーを越えた社会で将来的にリーダーとなりうる人材を育成したいと考えています。

指導・サポートに関して

1)サッカーの面に関して

能力の高い選手に、良い環境で集中的に良い指導を与え、個の能力を高めます。

寮生活の中で、最高のトレーニング環境を与えます。中学校3年間を1学年ずつに分けてトレーニングを行います。

試合も重要な機会であり、公式試合活動に関しては、アカデミーではなく個々にチームに所属し、週末にはそのチームで試合の経験を積みます。

2)サポート、環境面に関して

日本サッカー協会技術委員会、スポーツ医学委員会等と共同し、メディカル、栄養、フィジカル、テクニカル等のサポート体制にて、より良い成長を促していきます。

心理的に不安定な時期に当たりますが、適切なサポート、刺激を与えることでドロップアウトを防ぐよう、対応を行います。指導担当者によるケア、カウンセリングに関しての体制も整えていきます。

3)教育面に関して

サッカーばかりではなく、人間的な教育、論理的思考、ロジカルコミュニケーションスキル、IT等の総合的教育を行い、リーダー教育を重視します。

また、代表としての自覚を促す教育を行います。

将来日本をリードする人材となる真の意味での「エリート」を育成します。

JFAアカデミー熊本宇城開校式
『アカデミー生決意表明』

2009年4月

今日はお忙しいところ、このように大勢の方にお集まりいただき、どうもありがとうございます。

僕たち、JFAアカデミー熊本宇城、一期生全員が、今から決意表明をします。

【2005年宣言】
多くの方々のお力で僕たちのアカデミー熊本宇城がスタートします。
「JFA2005年宣言」の実現に向けて僕たちに期待が寄せられています。
この大きな目標が達成できるように、僕もお役にたちたいと思います。
ワールドカップの優勝。サッカー仲間がたくさんいる日本。
想像するだけでわくわくしてきます。
そしてサッカーでみんなが幸せになれたら素敵だなあと思います。
アカデミー福島の先輩たち、仲間たちに負けないよう、良いスタートを切りたいと思います。

【夢】
アカデミーには五訓があります。
僕は中村選手に憧れています。
中村選手みたいに日本選手を引っ張っていく選手になりたいという夢があります。
夢をかなえた人の話を聞くと、夢を実現することがすごく大変なことだと思います。
簡単に夢はかなわないということと、かなえるためには毎日の努力が大切なんだと感じます。
アカデミー熊本宇城ではどんなことがあっても絶対にくじけずに夢に向かって頑張ります。

【自由】
よく自由という言葉を聞きますが、いままで自由について考えたことがありません。
辞書では考えや行いがほかの人に縛られず、思いのままにすることがありました。
でも、何をしてもよい、好き勝手に行動しても良いといいうことではないと思います。
自由という言葉の本当の意味を自分の言葉で伝えられるように、アカデミー熊本宇城の生活の中で見つけたいと思います。

【責任】
僕はたくさんの人に支えられながら、このスタート地点に立つことができました。
でもこれからは、朝起きることや、食事の片づけ、洗濯、全部自分でやらなければなりません。
そして、自分で決めなければならないこともあると思います。
自分の行動はもちろん自分で決めた意志についても最後までやりぬくことが責任だと思います。
アカデミーに来たのは自分の意志です。
最後まであきらめないプレーヤーを目指します。

【誇り】
僕は選手宣誓をやったりキャプテンとして良い成績をたくさん残したりました。
このアカデミーに合格した時も、みんながとても喜んでくれました。
これが僕の誇りだと思っていました。それが自慢でした。
でも、自慢したり、人に見せびらかしたりするものではないと教えられました。
誇りとは責任を果たしたり、社会に貢献するような気持ちだともいわれました。
アカデミー生として誇りと自信を持って取り組んでいきます。

【創造】
サッカーで創造性という言葉が使われます。正直良くわかりません。
創造を辞書で調べたら、「今までにないことを新しく作り出す」とありました。
僕は今までお父さんやお母さんにいろいろなことを手伝ってもらいながら過ごしてきました。
でも今日からは自分のことは自分でやらなければなりません。
今までの自分ではなくて、新しい自分に生まれ変わるように、努力したいと思います。
そして人に感動を与えられるようなプレーヤーを目指します。

【学びとる】
学ぶという言葉は“まねる”という言葉からできたと聞きました。
今日いらっしゃる高円宮妃殿下が以前、
「学ぶのではなく学びとる積極性が大切」だといわれました。
アカデミーはもちろん学校での多くの仲間からいろんなことを学び取っていきたいと思います。
決して受け身にならずに生活します。

【チャレンジ】
僕は4年生のときからJFAアカデミーに入りたいと思っていました。
でも心の中ではまだ受験もしていないのに、いつも合格するかどうか不安でした。
“自分には無理かな”とあきらめかけたこともありました。
今回アカデミー熊本宇城に合格することができました。
自分の中で大きな自信になりました。
そして、将来は海外でプレーしたいと思っています。
そのためにも、アカデミー熊本宇城では失敗を恐れずにいろんなことにチャレンジします。

【フェアプレー】
僕が考えるフェアプレーはルールを理解し、守ることだと思います。
そして相手やレフェリー、仲間を大切にすることだと思います。
倒れている相手がいたら、手を差し伸べます。自分が倒れたらすぐに立ち上がります。
最後まであきらめないでプレーすることもフェアプレーだと思います。
良いプレーをして、サッカーを楽しみたいと思います。

【ポジティブ】
僕はアカデミーに合格できて、夢のあるプロサッカー選手に少し近づけたと思います。
僕はアカデミーの試験をフィールドとキーパーで受験しました。
合格したのはフィールドプレーヤーでした。
本当はキーパーをやれたらと思いました。
でも今はこのチャンスを与えられたことに感謝しています。
夢に向かって前に進んでいきます。

【向上心】
僕はアカデミー熊本宇城に入学することができました。
アカデミーに入りたいと思ったのは、もっともっとうまくなりたいからです。
親元から離れ自分一人での生活が始まります。
けがをしたり、時にはけんかをしたりすることもあると思います。
どんなことがあってもあきらめない強い向上心で取り組んでいきます。

【自立】
アカデミーでいろんなことがあると思います。
失敗もたくさんすると思います。
そうして自立をしていくのだと教えられました。
お父さん、お母さんのもとを離れて生活することはとても不安です。
でもコーチはじめたくさんの仲間がいます。
アカデミーの活動の中で、多くの人の力を借りながら、自分のことは自分でやれるようになりたいと思います。
決して受け身にならずに生活します。

【感謝】
これまで、サッカーができることが当たり前のように思っていました。
でもそれは、両親はもちろん、僕たちの知らないところでサッカーができる環境をつくってくれた人たちがいたからです。
僕はアカデミー熊本宇城一期生として、心に誓ったことが三つあります。
一つ目は、サッカーを通して出会う人を大切にすること。
二つ目は、物を大切にすること。
そして三つ目は、感謝の気持ちを忘れずに、いつも笑顔で頑張ること。
よろしくお願いします。
ここで、僕たちは、小川中学校に通います。
地元の皆さんにも、お世話になります。
友達が増えるのが、とても楽しみです。
そして、今、このスタートラインに立ったことは、僕たちにとって大きなチャンスです。
夢に向かって、最大限の努力をします。
ここ、宇城で過ごす3年間が、素晴らしかったと思えるように、一生懸命、ここで生活します。
これから皆さんにお世話になりますが、よろしくお願いします。

フィロソフィー

常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間を育成する。

校訓

JFAアカデミー熊本宇城　ホームページ　kumamoto-uki.jfa-academy.jp

方法に関して

1)生活に関して

：ロジング（寄宿制）＋ 週末帰宅

宇城市立ふれあいスポーツセンター（熊本県フットボールセンター）に隣接する宿舎に寄宿して、トレーニング、教育を行います。

最適な日課の中で、トレーニングおよび食事、休養、必要な学習をすることで、効果的な育成を行います。

週末は自宅に帰宅します。毎週末無理なく帰宅できる範囲からの子どもを対象としています。

2)学校に関して

：地元の公立中学校

居住地の学区にある公立中学、宇城市立小川中学校に通学し、学校生活を送ります。サッカーのプログラムばかりでなく、中学生にふさわしい学校生活・社会生活を大いに重視し、また勉強の面でも十分な指導を行います。

3)学校以外の教育に関して

：JFAプログラム

真のエリートとして社会をリードしうる人材を育成するため、JFAプログラムとして、学校のカリキュラムとは別に、寮生活の中でさまざまなプログラムあるいは日常的な働きかけを行います。

特に、ロジカルコミュニケーションスキルの習得、語学、リーダー教育を重視します。また、スポーツ選手としてのパフォーマンスを高め発揮するためにおくるべき生活態度についても学習し実践していきます。

4)チーム活動に関して

JFAアカデミー熊本宇城では、個の能力を高めるためのトレーニングを徹底して行いますが、チーム登録をしてチームとしての公式試合活動は行いません。各自が個々にチームに所属し、毎週末には帰宅し、そのチームで活動します。トレーニングの一環としてトレーニングゲームを行うことはあります。

5)地元での社会生活に関して

親元を離れて寮生活を行い、地元の公立校に通い生活を送るに当たり、アカデミーの仲間ばかりで生活することは、この年代の子どもたちにあるべき姿ではないと考えます。学校でのさまざまな活動はもちろん、地元との交流、社会との交流を重視していきます。

地元、NPOスポーツアカデミー熊本宇城と協力しながら、子供たちが地域の活動や地元の生活に触れる機会をつくっていきます。また、労作教育実習等も計画しています。

関連機関

宇城市立小川中学校

宇城市立ふれあいスポーツセンター
（熊本県フットボールセンター）

クラブハウス

宿舎（NPO スポーツアカデミー熊本宇城）

熊本県宇城市との協力体制により実現

日本サッカー協会「JFA2005年宣言」の趣旨に賛同した熊本県宇城市が、その約束の実現に向けて大きな担い手となるこどもたちのために、サッカーを通じて、「大きな夢を抱ける環境」を用意することが大人の使命であると考え、地域拠点の設立を決定しました。

地域の拠点として、若年層育成のフィロソフィーや方法を発信するとともに、ハード、ソフトの両面で地域のスポーツの発展に貢献・寄与することを主眼に置いた、JFAアカデミー熊本宇城開校の受け皿となるべく「NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城」が設立されました。「JFAアカデミー熊本宇城」の招致を目指し、地元自治体（宇城市）の協力の下、県サッカー協会と協力体制を構築しながら開校に向け計画を進めてきました。

NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城は「熊本県及び西日本地域におけるスポーツ活動の普及および振興を図り、スポーツを通してのまちづくり、地域活性化、人材育成に関する事業を行い、地域社会の貢献活動に寄与する」を実現（達成）するため、関係各団体等と連携を図りながら、地域拠点として、次世代を担うこどもたちへの一助となるべく役割を果たしていくことを目的としています。

JFAアカデミー熊本宇城の推進母体として活動しながらスポーツの普及を図り、寄宿舎建設を行いました。その施設を含んだ施設全体を熊本県フットボールセンターとして位置づけ、サッカーを通したサービスを総合的に提供する拠点施設となります。拠点となる施設を整備することにより、県内外をはじめとした生涯スポーツの交流の場として、スポーツ人口が増大し、異業種間交流の橋渡し的な役割（施設）となることが期待されています。

2015年からは、NPO法人スポーツアカデミー熊本宇城が、JFAアカデミー熊本宇城の運営を主体的に行うよう現在準備をすすめています。

地域の拠点として、また、日本を代表するエリート育成となる施設として、民間及び住民を含めた地域一体となって、スポーツを通した「人づくり」による教育をおこない、「教育」から「共育」さらに「響育」へと波及していくような全国に先駆けた、モデルとなるような独自性・地域性を加味したものの構築を目指しています。

トレーニング環境概要

ピッチ

宇城市立ふれあいスポーツセンターの施設を利用して活動が行われます。

指導体制概要

日本代表チームから、オリンピック代表監督、ナショナルトレセンコーチ、技術委員会委員等が全面的に協力し、指導していきます。

各学年には担任としてヘッドコーチが1人ずつつきます。

また、ゴールキーパーコーチ、アスレティックトレーナーが指導に当たります。

コーチングスタッフは宿舎にて選手達と生活をともにし、ピッチ内・外とも、スポーツ選手にふさわしい生活を身につけさせていきます。

学校とも連絡を密にとり、協同で選手達の指導、ケアに、万全の体制を整えて臨みます。

熊本県宇城市周辺地図

熊本県宇城市（人口6万4千人、面積189㎢）は、九州の中央、熊本県のほぼ中央に位置し、九州の大動脈である国道3号と九州自動車道が南北に走り、西は天草、東は宮崎県への結節点という地理的条件に恵まれた、美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた自然環境にある地域です。そして、熊本市と八代市の中間部にあり、都市的機能を併せ持つバランスのとれた水と緑と心豊かな地域です。
九州各県へは、車およびJRにより、2時間以内で結ぶ交通体系が充実しています。
熊本県宇城市は巻誠一郎選手や磯貝洋光氏など、日本を代表するサッカー選手を輩出した地域として知られています。

宿舎生活に関して

1）宇城市立ふれあいスポーツセンター（熊本県フットボールセンター）に隣接する寄宿舎を利用します。

2）宿舎は共同生活を通じてコミュニケーション、交流、教育、学習、休養を行う場としてとらえています。

3）家族が必要な年代に親元を離れることになりますが、毎週末帰宅し、家庭生活に戻ることとします。ウイークデーをはじめ生活全体の問題に関しては、学校と連携しながらサポートを行います。

また、指導担当者、学校、地域で協力し、十分なケアをすると共に、保護者との連絡を密にとり合い、精神面のサポートを行い、ドロップアウトを避け、一人ひとりが前向きにプログラムに取り組んでいけるようにします。

4）病気や怪我等が生じた場合は、スポーツ医学委員会、および地元医療機関との連携により、十分な医療体制をとりますが、重篤なケースに関しては、個別に対応します。

5）数名の指導担当者が、夜間も必ず同宿し、寄宿生活に関して責任を持ちます。

施設概要

選手居室（6人部屋）、勉強部屋、ミーティングルーム、食堂、共同風呂、トイレ、メディカルルーム、選手ロッカー、ランドリーなど。

トレーニングコンセプト

テクニック、判断力、持久力の向上と質の追求を目指します。JFAがこの年代でこそ身につけてほしいと考えることを、モデルとして実行しています。現代サッカーにおいて、育成年代で世界で言われているコンセプトです。

テクニック
判断力　　の向上
持久力

動きながらの技術、動きの習慣化、観る、判断する

1）あくまでも個の育成を目標とします。

チームを強化することは目的ではありません。JFAアカデミー熊本宇城としては、チームとしての試合活動は基本的に行いません。個の育成の一環として、試合は必要であり、それに関しては、各自チームに所属し、週末帰宅時にそのチームにて試合を行います。

2）中学校3年間で、年代に即した育成、基本の徹底を行います。

各学年ごとにわかれてトレーニング活動を行います。

進路の見直しに関して

JFAアカデミー熊本宇城は、中学校3年間のプログラムです。

3年間で、さまざまな理由によりハイレベルのトレーニングの継続が困難になる場合も想定されます。その場合は個々のケースに応じて、選手本人にとって最も良い方法を、本人、家族、所属クラブ、学校、指導者との協議により検討し、判断します。

高校への進学、クラブの決定に関しては、本人、保護者、学校と協議し、本人にとって最も良い選択を共に行っていきます。

卒業生進路一覧

JFA アカデミー福島
サンフレッチェ広島 F.C ユース
ファジアーノ岡山 U-18
京都サンガ F.C.U-18
ヴィッセル神戸 U-18
清水エスパルスユース
鹿島アントラーズユース
熊本県立大津高等学校
熊本学園大学付属高等学校
熊本国府高等学校
秀岳館高等学校
東海大学付属熊本星翔高等学校
佐賀県立佐賀東高等学校
日章学園高等学校
東福岡高等学校
筑陽学園高等学校
東海大学付属第五高等学校
鹿児島実業高等学校
高川学園高等学校
立正大淞南高等学校
滋賀県立草津東高等学校
群馬育英学園前橋育英高等学校

年間の費用

費目 ＼ 納入期	初年度	2年目以降
入校手続き金	150,000円 最終選考合格者手続き時（12月） 100,000円 3月 50,000円	―
活動費	月額 80,000円	月額 80,000円
合計（年間）	1,110,000円	960,000円

3年間にかかる費用（寮費・食費（1日2食）・トレーニング用品（支給限度数有り）・JFAが行うカリキュラム等）のうち、一部を活動費として月額8万円納入いただいています。

学校に関わる経費は各自負担となります。

中学校　年間経費　約140,000円
（文科省「子どもの学習費調査」より）
制服等　約48,000円

活動費の減免に関して

経済的な理由により、活動費の支払が困難と認められる家庭に対し、活動費の減免制度を設けております。

日本におけるエリート養成システムの全体像

世界トップ10を目指して
ー三位一体＋普及ー

日本サッカー協会では、「JFA2005年宣言」でSAMURAI BLUE（日本代表）が「2015年には世界トップ10を目指す」という大目標を掲げました。

それを実現するために、従来から掲げている「三位一体の強化策」に普及をプラスしました。すなわち、従来から、代表チームの強化ばかりでなくユース育成、そしてそれを指導する指導者の養成が一体となった総合力向上を目指していましたが、それだけでは不十分で、強化・育成と普及の両方を重視していくということです。普及によりしっかりとしたベースを築くことなくして、その上のトップの強化はありえないということです。

普及により、すそ野を広げ、広くて堅固なベースを基に高い山を築くことが重要です。

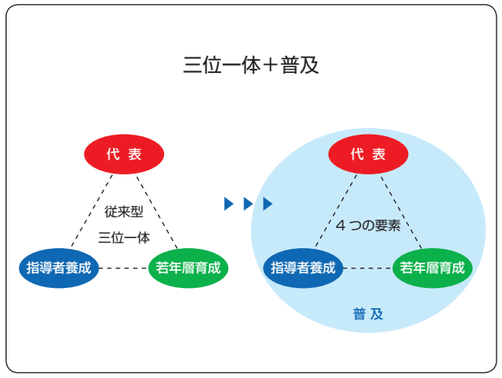
キッズを中心としたグラスルーツへの働きかけで生涯サッカーを愛し、楽しむ人たちを増やすこと、そのことがサッカー全体を支える大きな力になると考えています。

2003年度より、「キッズプログラム」を開始しました。U-6、U-8、U-10の子どもたちに、サッカーとの良い出会いの機会を提供し、ガイドラインを提示してその年代の子どもたちにとって良い環境・良い指導を与えることを目指しています。

また、レディースフットボール、ファミリーフットサル等の普及にもつとめ、日本サッカー界を大きく包んで支える力を得ています。

普及と強化・育成は、日本サッカー協会の使命です。

この両輪なくして
日本サッカーの発展はありえません。



長期的視野に立った選手育成

強化・育成の観点から、長期的視野に立った育成の考え方を非常に重要視しています。子どもは小さな大人ではなく、比例して一直線上に成長していくわけでもありません。さまざまな要素がさまざまな年代に別々の速度で伸びていき、年代毎にそれぞれ個別の特徴を示しながら最終的にバランスがとれて大人になっていきます。そのため、各年代には、その時にこそ伸ばすことのできる要素があるのです。このことは育成において、非常に大きな意味を持っています。それぞれの年代の特徴に適した良い環境・指導を与えて育成することが重要であるということです。

したがって、オンザピッチ、オフザピッチ共に、低年齢から働きかけたほうが良い要素があるのです。また、低年齢のうちに取り組ませても仕方のない要素もあります。このことに留意して、それぞれの年代にやるべきことをやって最終的な成長へと導いていくことが重要です。これは日本サッカー協会の育成の非常に大きなテーマです。

真の意味での「エリート」

「エリート」という言葉は日本では非常に抵抗感が強いものですが、それはこの言葉の真の意味が誤解されているためであるように思います。そして、その結果、遅れにつながっています。誤った「平等主義」により、社会全体でレベルの低下と共に、リーダー不在の状況が見られます。下の者に疎外感を味わわせないようにするということで、能力の高い者がなおざりにされ、伸びるはずの能力が伸ばせずにいるのが現状です。

平等とは、「能力に応じた機会の平等」であるべきです。

本当の意味のエリートは、社会の各分野でのリーダーであり奉仕者であり、確固とした倫理観と社会奉仕精神を兼ね備えている者達を言います。特権階級のことではなく、本来むしろ戦場で先頭に立って闘いに行く存在であり、その者達には常に重大な社会的義務が伴います。能力の高い者に、良い環境と指導を与え、そしてその者は、社会に対する責任を果たす存在となるということです。

私たちは、サッカー界で、真の意味でのエリートとなる人材を育てたいと思っています。それがサッカーの面でも必要である判断力やリーダーシップの面でも大いにプラスになると考えていますし、また、サッカー界あるいはそれを越えた社会で将来的にリーダーとなりうる人材を育成したいと考えています。

リーダー不在、判断力不足は、現代の日本社会の大きな社会問題であるとも言えます。

これに対し、私たちは、サッカー界の中でのアプローチをここに開始し、サッカー界から、スポーツ界から、社会に発信できればと思っています。

「世界基準」

スポーツ界は世界に眼を向けています。スポーツは、「世界」と闘う機会を持ち、常に「世界」を視野に入れています。

特にサッカーは、世界のスポーツであり、世界の実に多くの国で行われています。日本代表はその中で、世界のトップ10を目指しています。日本を代表して世界と対峙する機会を持ち、「世界に対する日本」を考えます。したがって、ドメスティックな基準、自分の周辺、あるいは日本国内の「勝った」「負けた」ではなく、常に世界基準を視野に入れていかなくてはなりません。国内の日常のレベルで満足していては、世界には決して追いつくことはできません。

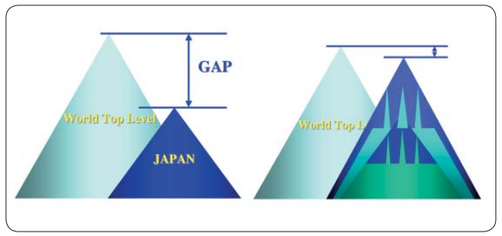
したがって、私たちのエリート教育の目標となる基準は、「世界基準」です。

「世界基準」で日本をリードし、サッカーのみならず、広くスポーツ界、社会全体に発信できる、トータルなリーダーシップをそなえた人材の育成を目指そうとしています。

「ボトムアップ」と「プルアップ」

さまざまな世界でそのレベルを上げるときに「ボトムアップ」と「プルアップ」があります。ボトムアップは平等主義で行う教育のように、全体のレベルを上げることに大いに役立ちます。プルアップはある才能のある子どもたちのレベルを上げることによって、最終的に全体のレベルを引き上げることです。集団のレベルアップには、その両方が必要です。残念ながら、日本には、このプルアップ教育のシステムが欠けています。

このプルアップがなされていれば、仮に後から才能を開花させる子がいたとしても、より高い基準をベースとし目標とすることで、充分にその差は埋めることができると思われます。



日本サッカー協会は世界のトップ10、そして世界のトップを目指しています。これは、後天的な努力のみで達成されるものではありません。先天的な能力のある者に良い環境を与え、本人が努力してはじめて育っていくものなのです。

世界のトップ10を目指すには、今までと同じ方法では間違いなく追いつきません。

「選手は勝手には育たない。タレントが偶然育ってくるのを待つのもいいだろう。しかしそれでは永遠に待ちつづけることになるかもしれない。」
ヨーロッパサッカー連盟技術委員長　アンディ・ロクスブルク

日本独自の一貫したエリート養成システムの確立

「JFAキッズプログラム」

キッズプログラム＝土台。これがないところにエリートのみの養成はありません。

U-6、U-8、U-10のキッズ年代にサッカーとの良い出会いを提供します。

具体的には、ハンドブック、指導ガイドラインの作成、指導者養成、フェスティバルの開催、巡回指導等を行い、種まき、ベースを広げる普及に取り組んでいます。

なるべく多くの子どもに、スポーツ・サッカーを好きになってもらいます。

キッズ年代エリートプログラム

キッズプログラムでサッカーに出会った子どもたち、その中でも能力の高い子どもたちに対し、その年代に適した良い環境と指導を与え、将来の伸びを促します。

また、子どもたちを把握し、成長の過程をモニタリングできるようにします。

トレセン制度

U-12、U-13、U-14（女子はU-12、U-15、U-18）を対象とした日本型発掘育成システムです。地区→都道府県→地域→全国にいたるシステムを形成しています。

チーム強化ではなく「個の育成」を目標とし、能力の高い個に対し良い環境と指導を与え、天井効果を排除します。

発掘・選考ばかりでなく双方向の流れを持ち、トレセンシステムを介して全国にビジョンや情報を伝える機能も持っています。

このシステムの成果で全体のレベルは間違いなく上がってきました。

2003年度よりトライアル開始

1）U-13／14年代2003年度よりトライアル開始

2003年度より、男子の13/14歳年代を対象に、JFAエリートプログラムを開始しました。これは、1週間程度のキャンプを年間約4回実施するものです。ロジカルコミュニケーションスキルをはじめとしたオフザピッチ（サッカー以外）のプログラムもとり入れました。当初より、ロジングの導入を意識したトライアルの開始としてきました。

2）都道府県U-13／14年代トレセンに内容の伝達

2003年度、2004年度に行ったJFAエリートプログラムの方法や内容について、男子の都道府県トレセン単位でのトライアルを推奨しています。各都道府県の指導スタッフを集め、研修会を行い、内容の落とし込みを行っています。

3）ロジングの開始準備

とは言え、年間に1週間程度のキャンプを数回行うだけでは、時間が限られています。ましてやこの年代は、成長が著しく、変化の非常に激しい時期です。1週間単位で刺激を与えても、長い間をおくと、間にコミュニケーションをとっていても継続的な徹底した取り組みは困難です。

より有効に、徹底した取り組みを実現するためには、日本でも「ロジング形式」のトライが必要であると考え、準備を重ねてきました。

ただし、中学生年代は、家庭の存在が不可欠な年代であり、ロジング形式を取り入れるにあたっては、この部分に対しての充分なケアが必要となります。

4）中高一貫教育の開始準備

日本の社会システムにおいて、中学から高校という、それぞれ3年間ずつの区切りとその移行の難しさが、サッカーの育成強化の過程においても困難を生む要素になっています。ここを打破するために、学制にかかわらず、最適な環境と指導を断絶無く与え続けたいと考えています。

サッカーの面の育成にも、オフザピッチの面の育成にも、6年間というスパンで長期的な展望をもって、同じ方針の下でやれることには大きな意義があります。

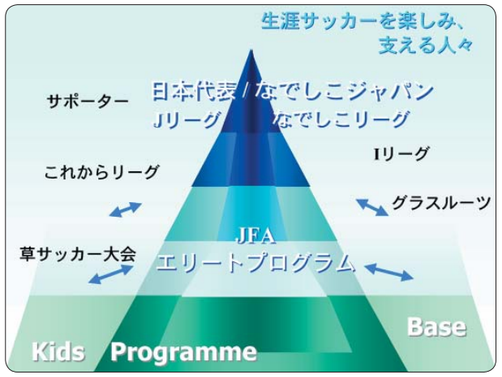
5）特別指定選手制度

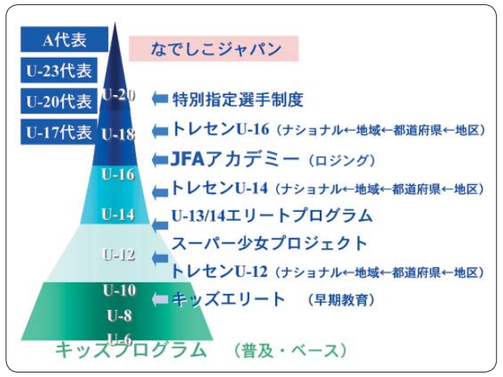
能力の高い選手に、その能力を十分に伸ばすことのできるレベルの高い環境を提供できるように設定された制度です。高校生、大学生であっても、プロの試合に参加できる環境をつくっています。旧強化指定選手制度を改革し、より積極的に、有効に活用できるようにしました。

6）JFAアカデミーの地域展開

JFAアカデミーは、そこに所属する選手のみを強化することが目的ではなく、全国に育成のモデルを示し発信することを目的としています。したがって、JFAアカデミー福島１校のみではその目的を達成することはできず、またより多くの才能ある選手に良い機会、環境を与えるためにも、JFAアカデミー自体を全国に複数箇所展開していくことが重要です。全国で数多く展開していきたいという想定の下、当初よりモデルとしていたフランスの国立サッカー学院でも採用している中学校年代の週末通い型をトライします。

これらの準備を経て、2006年4月よりJFAアカデミー福島の開校、そして2校目の展開として2009年4月よりJFAアカデミー熊本宇城が開校しました。さらに2012年4月より3校目としてJFAアカデミー堺が開校しました。今後、クラブや地域との連携等、さまざまな形態を検討しつつ、さらに広げていきたいと考えます。





FAQ

Q. JFAエリートプログラムはサッカーだけをするところなのですか？

A. いいえ、ちがいます。エリート本来の意味は、先頭に立って社会に貢献する人であると私たちは考えています。もちろんサッカーを通して人々に感動を与え、夢を与えることができる、そういう選手を目指してほしいと思います。ただ、そういう選手になりたいのなら、人間的にも優れたものでなければ社会全体のバックアップは得られません。私たちは学校の授業、勉強はもちろん、その他の社会的活動にも積極的に取り組むよう、指導していきます。

Q. 勉強の方はどんなふうになるのですか？

A. 地元の公立中学校に通います。寮生活の中でも、時間をとって勉強はしっかりと行います。

Q. 中学校3年間必ず通わなければいけないのですか？

A. 基本的には3年間を通してのプログラムです。ただし、さまざまな事情、状況はあると思いますので、必要に応じてそのつど、本人にとって一番良い判断を、本人、学校、家庭とも十分に話し合いながらしていきたいと思います。

Q. 日本サッカー協会に登録していたりトレセンに参加していたりしないと受験できないのですか？

A. そんなことはありません。自分に自信があり、私たちのこのアカデミーの主旨に賛同していただけるのであれば、是非受けてください。

Q. 年間の費用はどれくらいかかりますか？その中には何が含まれるのですか？

A. JFAアカデミー自体にかかる費用は15万円（初年度のみ）と月々8万円がかかります。この経費は主に月々の食費、光熱水料費、日常のサッカーの活動に係わる費用です。その他JFAカリキュラムに係わる費用などは、アカデミーが負担します。

突発的な事故により家庭の経済的事情が変化した場合を考慮して、費用の負担を救済する場合があります。

Q. どのようなところに住むのですか？

A. 県のフットボールセンターに整備される寄宿舎を利用します。

私達は個室は考えていません。さまざまな環境に耐える力、適応する力、社会性を養うことを目標としています。学校の勉強やサッカーのトレーニングだけが教育とは思っていません。あえてこのロジング制度を始めたのは、共同生活をする中に教育のチャンスがあると思ったからです。

Q. 皆プロになれるのですか？

A. 私たちは、質の高いトレーニングと、質の高い指導者をそろえ、そしてトレーニング施設に関しても、日本や世界でも有数の環境をつくっていきたいと考えています。こういう集団の中で、トップトップの日本代表や世界でプレーできるような選手をめざして我々も指導していきます。

全員がプロと契約することを望みますが、必ずしも全員がそうなれるとは保証できません。フランスのナショナルアカデミーでも、プロになるのは4人に1名程度です。私たちは、ここで学んだ生徒たちが、代表やプロ選手になることはもちろんですが、どのような分野でも活躍できるように育成していきたいと考えています。

Q. どんな人が指導してくれるのですか？

A. 育成年代においての経験と実績が豊富な専任コーチです。また、各年代の日本代表監督、コーチをはじめとして、経験豊富なナショナルトレセンコーチも指導に関わります。

Q. 日課はどのようになるのですか？

A. 月曜日から金曜日は、近隣の公立の小川中学校に通います。学校から帰ってきてトレーニングを行います。

学校の勉強ばかりでなく、JFA独自のプログラムもあり、それも日課の中に組み込まれます。サッカー選手として、また世界に通用するリーダーとして、というこのプログラムの目的を達成するためのプログラムです。

金曜日のトレーニング終了後解散で帰宅します。週末は、所属チームでの活動や家庭での生活を送ります。日曜日の夜に寮に再集合となります。

サッカーばかりの生活で良いとは思っていません。勉強も学校でのさまざまな活動、地域での活動等、社会的活動も重要視していきます。

Q. 親元を離れることが心配なのですが？

A. この年代はもちろん、家庭が非常に重要であり、家族との関係は不可欠と考えています。毎週末帰宅しますし、必要に応じてはご家族のほうから訪問していただく機会も設けます。

担当の指導者、スタッフ全員が、全力で子ども達の心のケアにあたります。地域にも温かく迎えいれていただき、元気に過ごしています。

常に担当の指導者が、学校や家庭と密に連絡をとっていきます。ご心配であれば、いつでもご相談ください。

【お問い合わせ先】

JFA アカデミー熊本宇城
（宇城市立ふれあいスポーツセンター内）
〒869-0606　熊本県宇城市小川町河江 52-1
TEL. 0964-47-5880
FAX. 0964-31-7036
対応時間帯：祝祭日を除く月曜～金曜 10：00-17：00

公益財団法人**日本サッカー協会**
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFA ハウス
公益財団法人日本サッカー協会 JFA アカデミー事務局
TEL. 03-3830-1890
FAX. 03-3830-1814
対応時間帯：祝祭日を除く月曜～金曜 10：00-17：00

JFA アカデミー熊本宇城はスポーツ振興くじ助成金を受けて実施しています。

NPO法人

スポーツアカデミー熊本宇城

Supporting the first steps towards your DREAM.

～夢への第一歩をサポート！～

わたしたちの活動で
スポーツを通じて、将来活躍する
「九州っ子」を育てよう！

わたしたちは「JFAアカデミー熊本宇城」をサポートしています！

随時、会員募集中！

ご不明な点等ございましたら、お気軽にご連絡ください。

〒869-0606 熊本県宇城市小川町河江52-1
事務局 0964-31-7037又は090-4992-0322